

# よこはま都市消防



公益社団法人 横浜市防火防災協会

Yokohama Disaster Prevention



消防車の中、見たことある? 写真: 近藤美樹さん

新連載  
スタート

- 防災歳時記
- 風に吹かれて

## 68号

1 | 4 | 7 | 10月

| 2025 | Autumn |

目次／フォト収集 ..... 1

消防車は語る(第22回) ..... 2  
 【潜攻車】若しくは 専攻車

横浜消防の近代史 ..... 3～4  
 関東大震災時の消防ポンプ自動車

**NEW** 防災歳時記 ..... 4  
 阪神・淡路大震災から30年

「減災新聞」の視点 ..... 5～6  
 記録的酷暑さらに

令和7年度防災セミナー開催結果 ..... 6

防災の取り組みにアシスト ..... 7～8  
 防災気象情報は理解されているか？

横浜消防トピック 119 ..... 9～10  
 救急の理解促進に向けて「あんしん救急」  
 横浜市立大学と横浜市が災害医療連携協定を締結！  
 リチウムイオン電池を搭載した電気製品の火災危険

消防「時代の証言者」(第2回) ..... 11～12  
 林野火災訓練記

防災よもやま話 ..... 13  
 映画『フロントライン』とダイヤモンド・プリンセス号の記憶

令和7年度防災功労者表彰 ..... 14

危険物関係表彰 ..... 15

防火防災協会におまかせ！ ..... 16

好評連載 ..... 16～18

**NEW** 風に吹かれて ファースト・プライオリティ  
 ●新約消防白書 来訪者が浮き彫りにしたもの ～人への信頼～  
 ●妄言多謝 ●横浜路地裏日記  
 ●わたしのベストショット!! ●朝食はコレ!

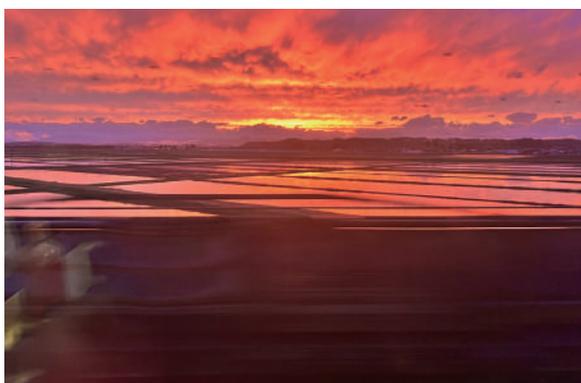
編集後記 ..... 18

私の趣味 ..... 19  
 低山巡り 孤釣山

# 「フォト収集」#32

## 風景

260kmの車窓  
 撮影地：二ノ関付近(東北新幹線)  
 作者：有賀大重



## 横浜

壁面緑化その9  
 撮影地：横浜市中区  
 作者：天野義照



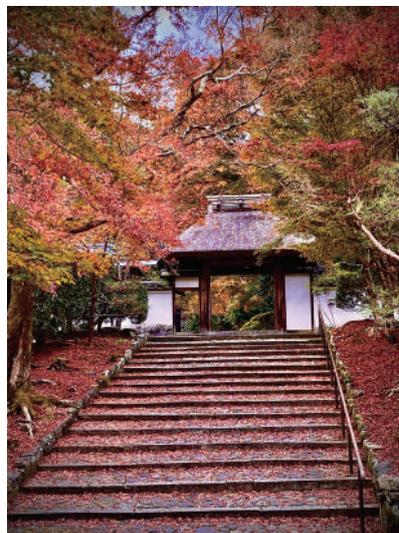
## 街

帷子川夕照 作者：武笠 基和  
 撮影地：横浜駅西口相鉄沿線



## 京都

侘び寂びの風景! 作者：M.N  
 撮影地：京都 安楽寺



## 【潜攻車】若しくは専攻車

横浜市 初代救助車(通称：伊勢佐木) 1964年トヨタ

イラストは横浜市に救助業務を行う『本部特別消防隊』が結成されたときの使用車である。

潜攻車、横浜市で育った人は聞いたことが無い言葉かもしれない。私は物心ついたころから消防車と言えば「センコウシャ」だった。普通の消防車とは少し違うところがあってそれが魅力だった。

まず大きなサーチライトが2〜4基、ながーい梯子か伸縮梯子、ポンピアラッタルと称した架け替え梯子を装備していた。

個人装備は防毒マスク、防災鹿皮マスク、手鉤など、普通の消防隊員とは大きく異なる点が特徴だった。空気呼吸器は2基搭載されており1965年私が採用されたころはこの車両のほか、各区の第2消防隊のみに装備され、火災時の人命検索で煙中を通過する程度にしか役立ってなかったようである。消防が救助業務を行うようになって別名も誕生した。自治体消防以前、多くの市町村は『消防決死隊』と呼び畏敬の念でその職務をたたえた。潜攻車は所によっては専攻車と表現されているが任務や目的は同じである。

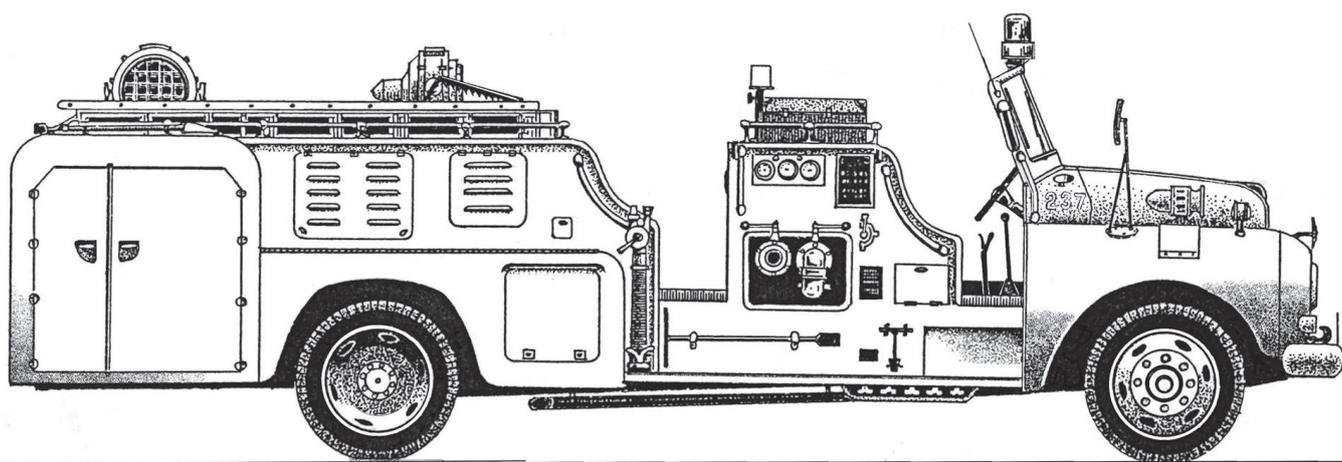
### エピソード

この車を運用中に次世代車両の構想が終了して製作期に入っていた。聞くとキャブオーバータイプで大型トラックシャシを使うとのこと期待させられた。メーカーの完成予想図は私たちの想像を超える斬新なバス型であった。従来の消防車の特徴である突起物はすべてボックス内に収められている。唯一、高橋(宗)主任=当時=が悔しかったことは、ポンプを外すと消防車の認可が下りなくなるとのことでポンプが装備されたことであった。これが中央通路を狭めることになり次期車両への目標となった。全国消防救助技術大会を横浜市が主催して開催したことから2台目バス型救助車は全国の救助隊に知られることになる。



防災・生活安全 がもん  
我聞塾  
**佐藤 榮一**

イラストのサインSakaeは榮一の榮で高校時代から使用しています。



Sakae Sakae 画：佐藤榮一



## 画集「消防車」～佐藤榮一と横浜の歴史～ 販売中!

- ◆サイズ A4
- ◆ページ数 128ページ イラストは102作品
- ◆出版元 公益社団法人横浜市防火防災協会
- ◆販売価格 3,000円(税込)
- ◆受付完了のメールを受信後、本代金と送料をお振り込みください。

ご注文はこちら ▶



画集オーダー  
メールフォーム

# 横浜消防の近代史

横浜都市発展記念館

主任調査研究員 吉田 律人

## 関東大震災時の消防ポンプ自動車

特別編



焼失した第二消防署とメリーウェザー号  
1923(大正12)年9月 岡本三郎撮影 横浜開港資料館蔵

今回も前回に引き続き、横浜市における消防ポンプ自動車の普及過程を追いかけていきたい。1919(大正8)年9月1日、特設消防署規程(1919年7月16日、勅令第350号)に基づき、神奈川県第一消防署(現横浜市西消防署)と同第二消防署(現中消防署)が誕生する。前者は新設、後者は薩摩町消防組(旧居留地消防隊)の施設や装備を引き継いだもので、それぞれ1台ずつのガソリン式消防ポンプ自動車を備えていた。第二消防署の消防ポンプ自動車は薩摩町消防組の導入したイギリスのメリーウェザー社製の車両(メリーウェザー号)、第一消防署の消防ポンプ自動車は新規導入のアメリカのラフランス社製の車両だった。

その後、1922年6月16日、神奈川県告示第195

号で「消防署消防分署配置人員並主要器具表」が改正され、分署や出張所の増設とともに、消防ポンプ自動車の数も大小あわせて6台まで増加することになった。同表は第一消防署、伊勢佐木町出張所、第二消防署配備の車両を大型、神奈川分署、中村町分署、北方分署配備の車両を小型としている。メリーウェザーやラフランスの車両は大型に位置づけられていた。

1923(大正12)年9月1日、関東大震災が発生、横浜市は同時多発的な火災に襲われ、市内の消防機関も大きな被害を受けた。その状況については、神奈川県警察部保安課のまとめた「震後横浜市の消防設備に就て」(『警友』第2巻第9号、1927年9月)や栗原梅葉「震災前の特設消防と復興状況」

(『消防』第1巻第1号、1928年12月)に詳しい。後者によれば、発災前、横浜市内には7台の消防ポンプ自動車があり、地震によってラフランス社製車両1台、メリーウェザー社製車両1台、レオーノーザン社製車両1台の計3台が失われたという。しかし、残存した主要装備としてラフランス社製車両1台、レオーノーザン社製車両1台を挙げているほか、全体の残存車両を5台としており、数が合わない。

一方、前者は第一消防署のラフランス社製車両1台、レオーノーザン社製車両2台、水管自動車を改造した車両1台の計4台が残ったとしている。失われた消防ポンプ自動車3台だとすれば、数は合致することになる。1936(昭和11)年に神奈川県消防課のまとめた『横浜消防概況』も焼失した消防ポンプ自動車を3台としているので、この数は間違いなさそう。また、『横浜第二消防署消防史料』(横浜開港資料館所蔵)は残った2台の小型消防ポンプ自動車を中村町分署と北方分署に配備したとしており、これも保安課の記録と合致している。

以上の情報を整理すると、確証を得られない部

### 関東大震災時の横浜市内の消防署の人員・装備

| 組織         | 所在地     | 人員      | 装備  |     |    |     |    |
|------------|---------|---------|-----|-----|----|-----|----|
|            |         |         | 消防車 | 水管車 | 蒸気 | バイク | 給車 |
| 神奈川県警察部保安課 | 本町1-3   | —       | —   | —   | —  | —   |    |
| 第1消防署      | 西戸部町330 | 27      | 1   | 1   | 0  | 1   | 0  |
|            | 伊勢佐木出張所 | 14      | 1   | 0   | 1  | 0   | 0  |
|            | 初音町出張所  | 12      | 0   | 1   | 0  | 0   | 0  |
|            | 浅間町出張所  | 4       | 0   | 0   | 1  | 0   | 0  |
|            | 神奈川分署   | 神奈川町24  | 14  | 1   | 1  | 0   | 0  |
| 第2消防署      | 山下町238  | 33      | 1   | 1   | 0  | 1   | 0  |
|            | 地藏坂出張所  | 山手町9    | 4   | 0   | 0  | 0   | 1  |
|            | 谷戸坂出張所  | 山手町257  | 4   | 0   | 0  | 0   | 1  |
|            | 見張出張所   | 山手町146  | 4   | 0   | 0  | 0   | 1  |
|            | 中村町分署   | 中村町1113 | 20  | 1   | 0  | 0   | 0  |
| 蒔田出張所      | 蒔田町     | 10      | 1   | 0   | 0  | 0   |    |
| 北方分署       | 北方252   | 14      | 1   | 0   | 0  | 0   |    |
| 合計         |         | 160     | 7   | 4   | 2  | 2   | 3  |

※1：組織は「特設消防署管轄区域」(1922年6月16日、神奈川県告示195号)を参照。  
 ※2：所在地は 日本商工通信社編『職業別電話名簿 東京・横浜』(日本商工通信社、1923年)を参照。  
 ※3：人員・装備は栗原梅葉「震災前の特設消防と復興状況」(『消防』第1巻第1号、1928年12月)を参照。

分もあるが、関東大震災時の段階で、横浜市内の消防署は大型3台(メリーウェザー1台、ラフランス2台)、小型4台(レオーノーザン3台もしくは4台)を運用していたと推察できる。前号で紹介した藤野至人『火防消防講話』(消防新聞社、1922年)によれば、1922年度段階のレオーノーザン社製車両の台数は全国で4台なので、横浜市内で集中的に運用されていたと考えられる。

新連載

## 防災歳時記

### 「阪神・淡路大震災から30年」

30年前の1995年1月17日早朝、兵庫県南部を巨大地震が襲った。阪神・淡路大震災である。この震災では初動体制の遅れが大きく取り上げられた。その教訓が「緊急消防援助隊制度の創設」と「災害情報画像伝送システムの整備」に繋がった。前者は今年4月現在で、6,731隊、2024年度末に基本計画を改定し、2028年度末までに概ね7,200隊を目標に増隊(総務省消防庁)することとなっている。

一方、後者は、国の財政措置を背景に「大都市は概ね2年以内に整備を」という方針を受け、本市では1995年9月補正予算に9億8,100万円を計上

した。これにより、横浜ランドマークタワー屋上に設置した東西南北4基のカメラ映像を保土ヶ谷区の指令センター(当時)へ伝送し、地域衛星通信ネットワークを通じて、国をはじめ、北から南まで同時に映像伝送できるようになった。この30年間でデジタル技術や蓄電技術も大幅に進歩したが、当時は、深夜のBS番組欄には「食による中断」なるものがあつた。技術の進展により世の中も大きく変わったが、大地震など自然災害への脅威は切迫している。今、他都市の緊急消防援助隊との一層の連携に加え、自衛隊など他の救援機関との横断的連携の強化が急務になっている。(TA)



# 「減災新聞」の視点

神奈川新聞論説委員 渡辺 渉



強い日差しを避けようと、日傘や帽子、アームカバーなどを着用する人が目立つ＝8月、小田原市

## 記録的酷暑さらに

今年もまた、記録的な酷暑に見舞われた。「猛烈な暑さ」「災害級の暑さ」「危険な暑さ」一。厳しさを形容するメディアの言葉はいくつもあるが、果たしてその深刻さは伝わっているだろうか。

私たちの命と暮らしは、暑さに奪われる。もはや、そう断言せざるを得ない状況だ。毎年の酷暑からどう身を守り、住まい方や生活リズムの見直しも含めた対策に取り組んでいくか。真剣に考え、実践しなければならない。

気象庁の最高気温ランキングでは、国内歴代最高は今年8月5日に群馬県伊勢崎市で観測された41.8度。2位は静岡県静岡市と埼玉県鳩山町の41.4度、4位の群馬県桐生市と兵庫県丹波市の41.2度と続くが、これらはいずれも今年7、8月に観測された記録だ。静岡県浜松市(2020年)と埼玉県熊谷市(2018年)で観測された41.1度が従来最高だったが、その記録は今夏、複数の地点で次々と塗り替えられた。

ランキングの上位に登場する地域は、首都圏北部や近隣県が目立つ。気温が高くなりやすい地形や位置などの条件があるためだ。一方、その中に神奈川の観測地点(横浜、三浦、藤沢、海老名、小田原の計5地点)が含まれていないのは、沿岸部に位置し、海風の影響で比較的涼しい気候のためとされている。それゆえ、群馬や埼玉、静岡のように、神奈川が気温の高さで全国的なニュースになることはほとんどない。

しかし、今夏は様相が違った。海老名では8月3日、神奈川県内で歴代最高となる38.9度を観測。その2日後の5日は39.9度まで上昇し、記録をあっさり塗り替えた。翌6日にも再び38.9度を観測したため、今夏の記録が上位を独占することになった。神奈川の中では、位置的に海風の影響を受けにくい海老名は気温が上昇する傾向があるが、昨年までの最高気温が38.1度だったことを踏まえると、今夏の異常な高温ぶりが際立つ。

同様に神奈川の中では気温が高い小田原も、8月5日に38.5度と観測史上最高を記録したが、翌6日には39.2度と記録をさらに更新した。藤沢市(37.1度)と三浦市(36.8度)も、今夏に観測史上最高気温を塗り替えている。

横浜はどうだったか。1896(明治29)年に統計を取り始め、100年以上の気温観測の歴史がある。これまでの最高は2016年と13年に観測した37.4度だったが、今年8月6日に38.1度まで上昇し、記録を塗り替えた。横浜では昨年、猛暑日(最高気温35度以上)の日数が計22日を数え、2023年の記録(計9日)を大幅に上回ったが、今夏は気温の観測値が大きく更新された形だ。

来夏には神奈川でも40度超えとなる日が出てくるに違いない。そう思わざるを得ない状況だが、もう一つ目を配るべき観測データがある。夜間の最低気温である。

横浜で8月6日に観測された最低気温は29.2度。昨年7月にも記録された「観測史上最高の最低気温」(タイ記録)だ。しかも、その日の真夜中は30度を超え、「熱帯夜」(最低気温25度以上)どころか、「真夏日」(最高気温30度以上)並みの気温となった。

昼夜を問わず高温となっているのは、ヒートアイランド現象の影響が一因とされる。都市化が進み、緑地が減った横浜は、エアコンや車などからの人工的な排熱で夜も気温が下がりにくいという特徴がある。寝苦しい夜が徐々に増え、就寝



猛烈な雨でマンホールのふたが吹き飛んだ現場＝7月、横浜市港北区(目撃者提供)

時に体を休めることさえ難しくなっていることも、認識しておきたい。

温暖化は地球規模の課題だが、身近な地域の現実でもある。熱中症のリスクが高まっていることは言わずもがな、屋外の作業やスポーツが困難になり、農作物の収量減、生態系へのダメージ、水不足などが今後さらに深刻化しかねない。

他方で、雨の降り方が激しくなるなど気象の極端化が進み、台風の強大化や豪雨災害の激甚化も懸念される。7月には、1時間に100mmという猛烈な雨が降った横浜市港北区で、マンホールのふたが吹き飛び、道路が陥没する被害もあった。暑さだけでなく、雨を受け止める余裕もなくなってきている。

こうした現実はどう向き合い、折り合いを付けていくか。今まさに知恵を絞り、行動していかなければ、日常化する気象災害を乗り切れない。

## 令和7年度 防災セミナー開催報告



会場の様子



講師：NHK財団アナウンサー  
小郷 知子 氏



講師：NHK横浜放送局  
経営企画センター  
(防災士) 森 良之 氏

**日時** 令和7年8月26日(火) 14:30～16:00

**場所** 横浜市開港記念会館 講堂

**演題** 「明日を守る防災ワークショップ」

**内容** ① NHKの災害報道  
② “命を守る呼びかけ” を考える  
③ NHKの防災・減災コンテンツ

**参加者** 153名



## 第16回

# 防災の取り組みに アシスト

防災気象情報は  
理解されているか？

地球温暖化が進むと猛暑による干ばつと豪雨を繰り返すと言われています。今年の梅雨の時期は少雨とともに、6月から35℃を超えるような日々となり、7月下旬には北海道で40℃に迫るなど、この夏の全国の暑さは統計開始以降最高を記録しました。そして8月初旬には状況が一転して梅雨末期のように前線が停滞し、鹿児島県や熊本県を中心に大量の雨を降らせ、地域によっては6時間で2か月分の雨が降るなど大きな被害が発生しました。

風水害が発生すると、「住んでいて初めて経験した」とか「70年間こんなことは一度もなかった」という報道を度々耳にしますが、この8月の事例も例外ではありませんでした。このことは風水害の増加を物語るとともに、一方で地域単位では大規模な風水害は必ずしも経験が蓄積されるような間隔では起こっていないということも示しています。

### 5段階の警戒レベルの改正経過

風水害時に的確に避難行動等が取れるよう毎年のように気象情報等が変更されます。この中で、5段階の警戒レベルの制定経過について振り返ってみます。

最近台風の上陸地点が北へ移動している様子がみられますが、平成28年9月の台風10号は、岩手県大船渡付近に上陸して津軽海峡から日本海側に抜けるという異常な進路をとり、統計開始以降初めて東北地方太平洋側に台風が上陸する事案とな

図1 警戒レベルの制定経過

| 警戒レベル      | 平成29年1月～<br>ガイドラインの改正     | 令和元年5月～<br>ガイドラインの改正 | 令和3年5月～<br>災対法・ガイド<br>ラインの改正 |
|------------|---------------------------|----------------------|------------------------------|
| 教訓とした災害    | 平成28年9月台風10号<br>岩手県岩泉町水害等 | 平成30年7月<br>西日本豪雨     | 令和元年<br>台風19号等               |
| 従前         | 避難情報の変更                   | 5段階の<br>警戒レベルの<br>導入 | わかりやすく<br>改善                 |
| 避難指示       | 避難指示(緊急)                  | 5 災害発生情報             | 緊急安全確保                       |
| 避難勧告       | 避難勧告                      | 4 避難指示(緊急)           | 避難指示                         |
| 避難準備<br>情報 | 避難準備・高齢者等<br>避難開始         | 3 避難準備・高齢者等<br>避難開始  | 高齢者等避難                       |

りました。これにより、岩手県岩泉町の高齢者グループホームでは近くを流れる小本川の水位が急速に上昇して浸水し9人が亡くなるという痛ましい災害が発生しました。

この事案等をきっかけに、避難勧告等に関するガイドライン(当時の名称)が改正され、「避難準備」が「避難準備・高齢者等避難開始」情報に変更されるとともに(図1)、令和2年6月には都市計画法が改正され、出水等の災害危険区域や土砂災害特別警戒区域に高齢者施設が新設できないこととなりました。

また、平成30年7月のいわゆる西日本豪雨では、1府10県に特別警報が発令され、死者・行方不明者が災害関連死を含めて300人を超えるという平成以降最悪の被害となり、これを受け、令和元年5月から5段階の警戒レベルが導入されました。

この時点ではまだ色表示はされていませんでしたが、令和2年5月から、警戒レベルの違いをわかりやすく伝えるとともに、様々な色覚の人にも可能な限りわかりやすいものにするために、各レベルの推奨配色が定められました。

その後、令和元年の台風19号等を受けて災害対策基本法が改正され、令和3年5月からは市町村が行う対応としての「避難指示」と「避難勧告」が一本化されて「避難指示」になるとともに、「避難準備・高齢者等避難開始」が「高齢者等避難」に、「災害発生情報」が「緊急安全確保」に変更されるという経過を辿っています。

ちなみに、令和3年3月からは、公募によって従来の危険度分布にキキクルという愛称が付され、警戒レベルの色の設定からは少し遅れた令和4年6月から警戒レベル4と5相当の色表示が警戒レベルに統一されました。

これらの制度は、随分と前からあった仕組みのような気もしますが、今の形になってから、まだあまり時間が経過していないことになります。

## 防災気象情報の認知度

気象庁は、昨年、防災気象情報等に関して一般住民にアンケートを行って認知度を調査しています。

### (図2)

この調査は、全国の20歳代以下から60歳代以上までの年代の区分別、男女2,000人を対象に、性別、年齢、居住地の都道府県を均等に割付けて実施したものです。

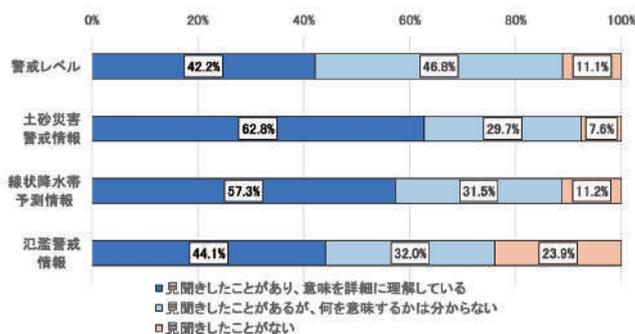
この調査の中で、警戒レベルに関して、「意味を詳細に理解している」と答えた人は約42%で、「何を意味するか分からない」、「見聞きしたことがない」と答えた人を合わせると約6割という高い結果になっています。「何を意味するか分からない」と答えた人は20歳代以下と40歳代でそれぞれ5割を超えており、「見聞きしたことがない」と答えた人は30歳代以下で約3割にもなります。警戒レベルが意外にも多くの人に知られていない事実が浮かび上がります。

また、土砂災害警戒情報の意味を理解している人は約63%と高くなっていますが、最近よく耳にする線状降水帯の予測情報について、「何を意味するか分からない」又は「見聞きしたことがない」という人を合わせると約4割になります。特に20歳代以下では、「見聞きしたことがない」という人は約2割もいます。

線状降水帯という言葉は、平成26年8月に広島県で大規模な土砂災害をもたらした豪雨を発生させた気象現象として注目を浴びるようになり既に10年以上が経過しています。ただ、その予測は難しく、「顕著な大雨に関する情報」としてその予測情報が発表されるようになったのは令和3年6月からです。

警戒レベルの情報や線状降水帯の予測情報は、いずれも発表されるようになってまだそれ程年数が

図2 防災気象情報に関するアンケート結果(図2)  
(R6.6、R6.5 気象庁資料から作成、N=2,000)



経過してなく、そのことが認知度に表れている可能性があります。防災関係者ならば当然のように知っている情報ですが、一般にはまだ知らない人が多いという前提に立って防災活動を進めて行かなければなりません。

## まとめ

線状降水帯の予測情報の令和5年と6年の実績では、事前に呼びかけがあつて発生したとされる適中率は2年合計で17%、また発生したもののうち事前に呼びかけがあつたとする補足率は2年合計で39%となっています。年々予測技術が進歩し、より高速のコンピュータを用いることにより予測精度の向上に向けた取り組みが進んでいますが、まだ十分でないようです。昨年9月の能登半島で発生した豪雨の際も線状降水帯の発生は予測されていませんでした。

風水害が増えているとは言え、経験の蓄積だけでは避難等の判断が容易にできない一面もあります。ハザードマップをはじめ、科学的データを基にした様々な情報の理解を深めながら早期に災害への対応を判断する姿勢を意識したいものです。



小野 和夫  
大阪・関西万博会場にて



**消防関係法令集はスマートフォンでも注文できるようになりました!**

消防関係法令集

3,100円(税込)(当協会会員2,800円)

●監修/横浜市消防局予防部予防課





## 救急の理解促進に向けて「あんしん救急」

横浜市消防局 救急企画課

### 経緯

横浜市では、高齢化の進展等を理由に、救急出場件数が年々増加し、予測を上回るペースで救急需要が高まっています。

しかし、救急車で搬送される方の約半数は軽症で、緊急性が低いケースも少なくありません。こうした救急要請が増加すると救急車の到着が遅れたり、本当に緊急を要する方への対応に支障が出る可能性があります。

横浜市では、増加する救急需要に適切に対応するため、救急隊の増隊や救急DXの推進による活動の円滑化などに取り組んでいますが、限られた人員と資源の中では対応に限界があります。そこで、これまで以上に、救急要請に繋がる大きなケガや病気を予防するための取組「予防救急」や「救急車の適正な利用」を市民の皆さまに広く知っていただくため「あんしん救急」の取組を令和6年8月から開始しました。



### 「あんしん救急」の取組



あんしん救急リーフレット



「あんしん救急 - 知って予防! 救急車」というキャッチフレーズのもと、医療、福祉、子育てを所管する各局と連携し、日ごろの備え、困ったときの相談先、緊急時の119番通報といった場面に応じた対応を市民の皆さまに知っていただくための情報発信を行っています。

特に、救急要請が多い高齢者や乳幼児を持つ子育て世代を中心に「あんしん救急リーフレット」を配布し、事故の予防や日常の備えについてお伝えしています。

さらに、令和7年度からは、小学校の「社会科」の授業などの時間を用いて、子どもたちにも救急車の正しい利用方法を学んでもらう「あんしん救急教室」を実施し、将来を担う世代にも命を守る行動について理解を深めてもらうことを目指しています。

こうした取組を通じて、救急事故の予防や救急に対する理解を広げ、市民の皆さまの安全・安心な暮らしに貢献していきます。



あんしん救急教室の様子

あんしん救急の詳細は、[こちら](#)▶



## 横浜市立大学と横浜市が災害医療連携協定を締結!

～災害現場への迅速な医師派遣体制を構築～

■ 横浜市消防局 横浜ヘリポート

令和7年8月5日、横浜市立大学と横浜市は、医療と消防の連携体制の強化を図ることを目的に、医師がヘリに同乗し災害出場する体制を構築しました。

この取組により、機内での高度な救命処置が可能となり、一層の救命率の向上が期待できます。



## リチウムイオン電池を搭載した 電気製品の火災危険

■ 横浜市消防局 予防課

私たちの生活を便利にしてくれるスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯できる電気製品の多くには、リチウムイオン電池が使われています。

リチウムイオン電池は、充電によって電気エネルギーを蓄える一方で、内部には可燃性の液体が含まれているため、安全に使えるように様々な工夫がされていますが、その取扱いを間違えれば出火する場合があります。

### ・強い衝撃や圧力を加えない

リチウムイオン電池が変形すると内部で短絡(ショート)し、発火する場合があります。

### ・適切な環境で使用・保管する

高温・低温などの環境では、充放電時の化学変化が正しく行われただけでなく、電解液が気化することで電池が膨張して変形したり、電解液が凍結して電池を損傷させることで、火災となる場合があります。

### ・信頼できる製品を選ぶ

ECサイトなどでは、設計・製造に問題がある製品も販売されていることがあります。安全性が確かでない製品の購入・使用は避けましょう。



出火したモバイルバッテリー

# 林野火災訓練記

## 池谷戦法追想 横浜市円海山林野火災訓練に学ぶ

防災・生活安全 <sup>がもん</sup> 我聞塾 主宰 佐藤 榮一

最近の地球温暖化に伴う世界的異常気象に起因した大規模林野火災が多発しており、わが国も例外ではなく、深刻な現象に強い危機感を抱いている。

そこで第1回は、消防人であった私が尊敬申し上げた池谷警防部長が考察された林野火災に対する『池谷戦法』の概要を紹介させていただいた。

この池谷戦法は、温故知新ではないが、現代においても普遍的な先見性を有しており、その具体的な展開が今こそ求められていると考えるが、前号では誌面の制約もあり、あらましを記したにすぎなかった。

そこで今回は、前号で紹介した内容に私の見解も交えながら補足しつつ、詳細を述べてみたい。

### 1 『池谷戦法』林野火災対応の考え方

#### ① 目的戦略

- ・木材は国家資源である。

焼失面積は最小限に抑制せねばならない。林野火災が及ぼす影響とは、森林の焼失が大きくなればなるほど、地球生命の消失につながる甚大なものなのである。

- ・人家・施設等への類焼はさせるな。

人家や施設等への類焼は消防にとって大恥と心得ねばならない。

一方、地域住民には、火災から消防機関が守ってくれているという依存心ではなく、住民が自発的に出火防止に取り組むように日頃からの行動啓発が必要である。

具体的には、強風時の屋外でのごみ焼却禁止や田畑等の火入れ禁止などである。

- ・人的被害は出さな

林野火災から派生する延焼火災で市民の人命損傷は消防の不作为責任と心得よ。

2025年2月に発生した大船渡市大規模林野火災では、90代男性1名の焼死が確認されている。痛恨の極みである。

また、危険と隣り合わせの消火作業中の消防職員の安全管理は、自分の命は自分が守ることが原則であるものの、活動区域が広大となることもあり、殉職者・死者を発生させない指揮・統制体制の確保が極めて大切となる。

#### ② 人智的戦術 基本の『き』に立ち返ろう。

消防力の三要素は「人と機械と水」である。

林野火災対策では、この三要素を総動員させなければならない。

【人】正しい知識と訓練で培った技術を備えた消防吏員・団員が火災防御活動の主軸となることは言わずもがなである。

しかしながら、林野関係組織・団体等(林野庁・営林署・林業関係者等)に限らず、地域に暮らす全住民が法令遵守による出火防止に努めるとともに、生命財産を自分で守る自助力、さらには自治会や自主防災組織等による共助力を高めていかねばならない。

自助力や共助力の向上につながる“人や組織”の醸成は、今後の林野火災対策において欠かすことのできない重要な鍵となる。

#### <延焼拡大の特徴的形態>

- ・輻射熱  
乾燥枯葉は爆燃的に燃える。
- ・接炎  
乾燥期には樹皮が着火剤になる。
- ・飛び火  
枝、葉、下草など風に乗る2 kmも飛ぶ

**【機械】** 高所放水消防車や水槽付き消防車といった基本的な車両はもとより、現在であれば、阪神・淡路大震災以降に導入が始まった遠距離大量送水車や、石油コンビナート火災等に対応する精鋭部隊として開発されたドラゴンハイパー・コマンドユニットなどの車両が有効である。

ただし、林道には消防車が入れないこともあり、小型動力ポンプ・ジェットシューター（背負い式消火水のう）なども併せて必要である。

**【水】** 消防力の機械化が進む現代でも林野火災にてこずる最大の理由は、消防水利の確保が難しいことである。水利の多数設置は現実的でないため、林縁道路を整備し消防水利を設置することを優先させたい。

湧き水・澤水貯留、小河川のせき止め、川底掘削など自然の水を水利として活用することも考慮したい。

### ③消火活動

「人と機械と水」を総動員させた効果的な消火活動を展開する。

放水は、半噴霧、筒先の振り回し注水、水幕放水に加え、放水銃直上放水、手持ち直上放水などの技法を用いて、大規模・大量・広範囲に噴霧放水する。

燃焼域に噴霧して消火に至れば目的達成して満足できるものであるが、火力が強く燃焼面積が広い場合などひたすら霧水を延焼方向・風下に散布する。

こうした噴霧放水は、火炎の温度を直接的に下げただけでなく、実効湿度を上げることができる。一面が霧で覆われることにより上昇気流を抑制する効果を生み出す。これはまさに池谷戦法の目指すところである。

なお、消火は側面攻撃（火面長を長く見る）が基本であり、追いかけて消火は無駄・徒労である。

### ●一般的な消防力のほか池谷戦法でテストされた装備と戦術 (1967年横浜市円海山林野火災訓練)

#### 放水塔車



#### 高圧ポンプ消防車



これら車両の放水機能は消火に直接的に用いるのではなく、大規模噴霧による森林空間の加湿化を試みたものである。

本訓練では「日常の基本訓練で確認できているように、地上で大量噴霧をして効果を得られるのなら、高所から行えばさらに高い効果が得られる。自明の理を実践するだけだ。」と単純明快な理論で実践したものである。

訓練では、期待通り消防車が損壊しない程度に高出力を発揮して効果を上げて納得し、満足した。

具体的には、18mの放水塔のノズル（口径25φ）から圧力13kgf/cm<sup>2</sup>で高圧直上放水したところ、風下約2km地点で霧水を感知した。

また、実測値は記録にないが、放水塔の水銃から放出された霧水は、約1km風下の地点の湿度を増加させる効果が確認されるなど、樹幹の実効湿度に影響を与えることも期待できた。

こうした記録からも、林野火災の戦術は木造住宅密集地域火災にも示唆的である。

今回は、池谷戦法の訓練以降に考案された消火戦術や、これからの対応策を述べてみたい。

# 防災よもやま話 第8回



横浜市防火防災協会  
専務理事・防災士  
山田 裕之

## 映画『フロントライン』とダイヤモンド・プリンセス号の記憶 ——現場に立ち会った消防の視点から

### 映画を観てよみがえった現場

今夏、大ヒットとなった映画『フロントライン』。ご覧になった方も多いのではないでしょうか。

新型コロナウイルス集団感染が発生した豪華客船ダイヤモンド・プリンセス号（DP号）を舞台に、DMAT（災害派遣医療チーム）が未知のウイルスに挑む姿を描いた作品です。報道だけでは分からなかった出来事や現場の葛藤がリアルに映し出されていて、私自身も胸が熱くなりました。

### “2隊しか対応できない”ってホント？

ただ一つ、「横浜市消防局の救急隊は100隊あるうち2隊しか対応できない」というセリフには、少し首をかしげました。実は当時、私は鶴見消防署でDP号の救急活動を統括していましたので、ここはぜひ本当のところをお伝えしたいと思います。

ざっくり言うと、感染症患者の搬送は大きく二つに分かれます。感染拡大防止を目的にするなら「感染症法に基づく移送（保健所対応）」、緊急医療が必要なら「消防法に基づく救急搬送（消防対応）」です。当時はウイルスの正体が分からず法律の整理も難しかったのですが、消防局は民間事業者や自衛隊と役割分担し、延べ70隊が活動しました。結果として74人（うち3人は保健所移送への協力）を搬送しており、「2隊だけ」というのは実際とは違うのです。

### 仲間が示した消防の矜持

もちろん現場は簡単ではありませんでした。防護服を着けての長時間活動は体力的にも精神的にも厳しく、不安や恐怖を口にする隊員もいましたし、外から心ない声を浴びることもありました。それでも仲間たちは「やれることは全部やる」という気持ちで、自らを奮い立たせて任務に当たってくれました。映画の中で仙道先生（窪塚洋介）が放ったセリフそのままに、現場の救急隊員も覚悟をもって命と向き合っていました。今思い出しても、誇らしく、感謝の念が尽きません。

### 本物の“いい男”たち

そして少し余談ですが、映画に登場した結城先生と仙道先生のモデルとなったお二人（写真参照）は、私にとっても古くからの仕事仲間であり、時にはお酒を酌み交わす友人でもあります。DP号の現場でも一緒にいましたが、映画に描かれたとおり、冷静な判断力と熱い心を兼ね備えた本物の“いい男”たちです。スクリーンでお二人の姿を見ながら、「やっぱりこの人たちはすごい」と改めて思いました。



ダイヤモンド・プリンセス号前に集結した救急車  
=2020年2月大黒ふ頭（消防局提供）



感染者の下船を待つ救急隊  
=2020年2月大黒ふ頭（消防局提供）



右端が結城先生のモデル・阿南先生、左端後方が仙道先生のモデル・近藤先生、左端が筆者。みんな若い！  
=2010年11月日本APEC医療本部（横浜市内）

# 令和7年度 防災功労者表彰

## 防災功労者表彰の皆様



神奈川



港南

鶴見 西 中 南 保土ヶ谷 旭 磯子 金沢  
 港北 緑 青葉 都筑 鈴木会長 戸塚 栄 泉 瀬谷

### 次の方々が防災功労者表彰を受賞されました。

| 区 別  | 被 表 彰 者 名                      |
|------|--------------------------------|
| 鶴 見  | 山田塗装工業株式会社 様                   |
| 神奈川  | ENEOS株式会社 横浜製造所 様              |
| 西    | 株式会社 横浜岡田屋 様                   |
| 中    | ブリーズベイホテル株式会社 様                |
| 南    | 株式会社 マルエツ 井土ヶ谷店 様              |
| 港 南  | 株式会社 港南スイミングクラブ 様              |
| 保土ヶ谷 | 三井防災株式会社 様                     |
| 旭    | 社会福祉法人清正会 特別養護老人ホーム グリンサイド清盛 様 |
| 磯 子  | 横浜市磯子区民文化センター杉田劇場 様            |
| 金 沢  | 株式会社 オーバル横浜事業所 様               |
| 港 北  | 有限会社 結城商事輸送 様                  |
| 緑    | 株式会社 マルエイ 横浜支店 様               |
| 青 葉  | 株式会社 緑山スタジオ・シティ 様              |
| 都 筑  | パナソニックグループ横浜事業所 鴨沢 一彦 様        |
| 戸 塚  | 山崎製パン株式会社 横浜第一工場 様             |
| 栄    | 有限会社 二本松物産 様                   |
| 泉    | 川崎自動車工業株式会社 様                  |
| 瀬 谷  | 株式会社 青武組 様                     |

(順不同・敬称略)

受賞された皆様におかれましては誠にありがとうございました。

# 危険物関係表彰

横浜市内で危険物を取り扱う事業所及び当協会講師が、関係団体から表彰されました。  
※敬称略

## 関東甲信越地区危険物安全協会連合会会長表彰

<諸設備の充実と安全管理功労>

三菱ケミカル株式会社 Science & Innovation Center



## 一般社団法人神奈川県危険物安全協会連合会会長表彰

<優良危険物事業所>



①

②

③

④

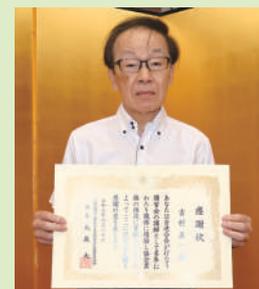
⑤

- ①本間運送株式会社
- ②東神奈川石油株式会社
- ③株式会社 相鉄ビルマネジメント
- ④NSMコイルセンター株式会社
- ⑤佐藤燃料株式会社

<優良事業所>  
株式会社 崎陽軒



<優良従事者>  
吉村 眞一  
(当協会危険物講師)



# 風に吹かれて



津波の引き波で横倒しになった交番（女川町）



想いを込めて書いた絵本「みんな森の子どもたちとヤギおじさん」

## 「ファースト・プライオリティ」

防災絵本（地震編）の原稿を書くにあたり、東日本大震災の被災地を久しぶりに訪れました。そこで、高校生の息子さんを津波で亡くされた語り部の話を聞く機会がありました。

「大きな地震が来たら待たないで自分で逃げて、そうすれば、また会えるから」

この語り部の言葉は、40年以上防災に関わる私の胸に重く、深く刺さりました。

大地震が発生した時、家族は別々の場所にいたそうです。その方は、自宅にいた息子さんに「津波警報が出ているから逃げろ」と連絡したあと「今、そっちに向かっているから」とメールを送りました。メールを見た息子さんは、一緒に逃げようとお母さんを待っていて津波被害に遭われ

たのでしょう。それから自分を責め続けたそうです。でも、息子は戻ってこない。もう、二度とこうしたことが起きないように、このことを多くの人に伝えていかなければと語り部の活動を続けておられます。

家族と一緒にいる時に災害に遭遇するとは限りません。また、その時、そこが必ずしも安全な場所だとも言い切れません。ですから、誰とどこにいようと、まず、「災害から自分が助かること」をファースト・プライオリティとして、一人ひとりが生き残るための力をしっかりと身に付けていくことが一番大切なことではないでしょうか。

童話作家 なとり まさあき



## 防火防災 協会におまかせ!



当協会では、事業所の  
**訓練指導・防災管理点検**  
を実施しています。



防火・防災  
コンサルティング

### 訓練指導

事業所の訓練指導やアドバイスを行っていますのでお声がけください。

### 防災管理点検

大地震発生時の防災体制の整備を図るため大規模・高層建築物等に対して、防災管理者の選任、地震災害に対応した消防計画作成、自衛消防組織の設置と併せて、防災管理点検報告が義務付けられています。  
※当協会会員の皆様には、ご相談に応じますのでお気軽にお声がけください!

#### 【義務付けられている建物】

|      |            |            |
|------|------------|------------|
| 対象用途 | 共同住宅（5項口）  | } を除く全ての用途 |
|      | 格納庫等（13項口） |            |
|      | 倉庫（14項）    |            |

#### 規 模

- |                             |                                |
|-----------------------------|--------------------------------|
| ①階数が11以上の建物<br>延面積10,000㎡以上 | ②階数が5以上10以下の建物<br>延面積20,000㎡以上 |
| ③階数が4以下の建物<br>延面積50,000㎡以上  | ④地下街<br>延面積1,000㎡以上            |

※複合用途の場合は、共同住宅、格納庫等、倉庫部分を除いた規模

防火対象物点検も実施していますので、お気軽にご相談ください!!

**TEL 045-714-0929** 横浜市防火防災協会 防災支援課  
訓練担当：滝沢・鈴木 点検担当：滝沢・河原

<https://www.ydp.or.jp/consulting/>

# 新約消防白書

## 来訪者が浮き彫りにしたもの

### ～人への信頼～

地震などの災害時に、世界では、略奪や暴動が起きることも珍しくないが、日本では、ほとんど見られない。それどころか、被災地では、列を作り、割り込みもなく支援物資を待つ被災者の姿が、世界のメディアに映し出された。このような限界状況での日本人の結束力は、世界から注視されている。

今、日本旅行が、各国から注目され、オーバーツーリズムと言われているほど。日本への来訪者は、自国の文化的背景を纏いながら、日本の日常を体験し、帰国するが、自国の街は、ゴミと落書き、犯罪が蔓延り、警戒し、人を疑う人間不信が当たり前の状況に気づき愕然とする。帰国後、無意識に日本と比較して、今までの自国の悲惨さに気づき落ち込んでしまうという。

「日本ロス」と言われる反応だ。

日本での、他者に配慮し、人に迷惑を掛けまいという当たり前の言動は、来訪者たちの反応で特異な文化的所作であると気付かされる。ポイ捨てのない街、静かで秩序だった車内。壊されない自動販売機、見返なし\*で現金や財布の7割が、落とし主に戻ってくる社会。我々は、人を信頼する文化に根差して生活していることを忘れがちであるが、再認識させられる。

「日本ロス」によって炙り出されるこの日本の「人への信頼」社会は、日常、強固な関係に見えないが、いざというときに、配慮のネットワークが形成され、最も強靱な日本人の結束力の源となっているのではないかと思えてならない。今、世界から信頼の回復が求められている。案外、ここにそのヒントが潜んでいるかもしれないと思ったりする。(k)



※「革帯が一つ紛失していた。もう暗くなっていたが、その馬子はそれを探しに一里も戻った。彼にその骨折賃として何銭かあげようとしたが、彼は旅の終りまで無事届けるのが当然の責任だ、と言って、どうしてもお金を受けとらなかった。」イザベラバード：「日本輿地紀行」1880年

## 妄言多謝 第32回

ちいちゃんとお君の母親がしばしばこの子たちの写真をメールで送ってくる。この日は二人が寄り添って昼寝をしているものだった。私は三好達治の『雪』の成り立ちを剽窃して「寝てるときはいつもおりこう、起きてるときはだいたいおりこう」と返信した。すると二人の母親は「だいたいでどのくらいだろう」これに応えるに国語辞典をいくつか引いたが、似たような言葉を一括りして明確な違いは記述がない。そこで私の愛読書『日本語語感の辞典』である。中村明先生は次のようにおっしゃる。ほとんど= 9割以上、あらかた、おおかた= 7、8割、たいがい、たいてい= 7割

以上、おおよそ= 7割、だいたい= 6、7割、ほぼはだいたいより多く、ほとんどより少ない。消防でよく使う概ねとは大概の概だからたいがいとおなじではないか。おおかたの違いはわかったが、多くの国語辞典がほぼ一括りにするのもわからないではない。国語辞典と中村先生の辞典で世界観はできているのだ。子どもたちの写真が緩やかに世界を映している。世界は曖昧でこそ成り立ちうる。寝てるときと起きてときの二つの世界と寄り添って寝ている一つの世界で私たちの平和な世界ができている。

これを脅かす者は誰だ。その悪を私はすべてをかけて排斥したい。(し)



# 横浜路地裏日記

YOKOHAMA ROZIURA NIKKI

連載 第31回

## 文と写真 ● ジャム

松本俊介の「Y市の橋」は、四作品あるらしい。岩手県立美術館、東京国立近代美術館、神奈川県立近代美術館、京都国立近代美術館に収蔵されているようである。橋であるとか建物であるとかの建造物・構造物が好きであったこと、街歩きも好きで東京の下落合から、横浜にも結構来ていたらしい。お兄さんからもらった絵画道具一式で描き始めたということだが、最初からすごかったようである。

Y市とは、もちろん横浜市のことであり、橋は新田間



川に架かっていた月見橋のことである。もちろん現在も月見橋はある。横浜駅北東口に行き、階段を



上りきり、出口を左に進めば、そこが月見橋である。すぐそばを京浜急行が走っていて、何とも言えない臨場感みたいなものにあふれているが、その凄みの原因は、鉄道のレールや跨線橋や巨大な橋脚や膨大なリベットのありようである。1945年の横浜大空襲によって辺りは焦土になってしまったが、松本俊介は再訪しており焼跡の橋も描いている。

どの作品も、不思議に普遍性あるいは匿名性もしくは抽象を感じるのにはなぜだろう。多くの作品が場所も特定できているのにである。

あの有名な「立てる像」だけではなく、どの作品にも、静謐、誠実、矜持ということばが、自然と浮かんでくる。

ところで、月見橋のことであるが、橋から月を見たのが、今では想像できない。月と言えば、李白である。月下独酌といいながら、月と影法師と三人で飲んでいたらしいから、それにならうことにするが、どうするんだ、オレ。

## わたしの ベストショット!!

撮影：近藤 美樹さん



今行くぞ!

## コメント

8月より勤めております石井と申します。私の朝食を紹介させていただきます。太っている割には、コーヒー1杯とヨーグルトのみの軽食です。コーヒーは知識もこだわりも無いのですが、毎朝豆を挽くところから始めています。たまに、夕食の残りなどを食べると満腹感が昼まで続きかえって調子が悪い感じです。朝刊を読みながらのコーヒーとヨーグルトの365日です。

オススメ  
今回の推薦者  
防災支援課嘱託職員  
石井 達男



## 朝食はコレ!

当協会事務局員のオススメ

第8回



## 編集後記

今号から新コーナーが2つ始まった。執筆者のお二方は、話をすれば話題豊富で楽しい御仁である。チャレンジ精神も旺盛で、新しい道を切り開いて来られている。限られた誌面の中でもその一端が垣間見られるのではと楽しみにしている。かく言う自分はというと、固定観念が強く、新しいものにはなかなか飛びつかない。他の執筆者の方々もそうだが情報のアンテナを常に高く持ってタイムリーな内容で執筆いただいている。本誌の編集は自分にとっては学びのテキストのよう。反省・・・。(F)

事務局職員の趣味の紹介

# 私の趣味

No.14

低山巡り(4) 菰釣山

専任講師 土橋 正彦



2019年2月 雨氷の花見



雨水がパラパラと音を立てて



2024年2月の山頂には雪があった

2019年2月、<sup>こもつるしやま</sup>菰釣山（標高1379m）の山頂には雪がなかった。ただし、前日に降った雨が急激な冷え込みにより、山頂の枯れ木には、一夜にして、雨氷の花が咲いていた。私が山頂に辿り着いた頃には、風のいたずらで、まるで花びらが散るかのように雨氷がパラパラと音をたてて落ちてきた。私は予期せぬ現象に、しばらくの間、自然の神秘に漬かり、時を忘れて堪能した。

菰釣山は、丹沢山塊の西側に位置し、神奈川県と山梨県の県境沿いにある。「道の駅どうし」に駐車して、2、3時間もあれば、キャンプ場を抜け、三ヶ瀬林道から山道に入り、避難小屋を経由して、山頂に辿り着く。菰釣山山頂からは遮るものが無く、富士山と山中湖が出迎えてくれる。帰り道が物足りなければ、城が尾山から鳥ノ胸山を経由して「道の駅どうし」に戻る健脚コースもある。下山後は、もちろん「道志の湯」に浸かって帰る。

その後も、何回か菰釣山を訪れているが、霧氷を見かけることはあっても、雨氷に遭遇したことはそれ以来一度もなかった。できることなら、冬の寒い日、雨の降った翌日を狙って、朝日に映える富士をバックに菰釣山の雨氷が降るさまを、今度は動画に撮ってみたいものだ。

## 横浜市防火防災協会 入会のご案内

当協会の目的に賛同されて入会を希望される個人、法人（団体）については、随時、入会を受け付けています。

■ 会員になりますと、防火防災に役立つ情報や消防関連各種講習会の開催案内などの提供を受けることができます。

提供される主な情報や案内は、次のとおりです。

- 1 防災広報誌（年4回）
  - 2 火災予防ポスター（年2回）
  - 3 消防法、横浜市火災予防条例の改正情報
  - 4 当協会が開催する消防法に基づく資格取得講習や応急手当普及啓発講習の実施計画
  - 5 防災をテーマとした講演会、セミナー研修への参加案内
  - 6 防災先進施設等の視察研修への参加案内
  - 7 防災関係図書、防災グッズ等の紹介、案内
- 会員には「正会員」と「賛助会員」の2種類があり、入会時に選択することができます。



|      |                   | 入会金     | 年会費     |
|------|-------------------|---------|---------|
| 正会員  | 総会の議決に参加できる会員です。  | 10,000円 | 12,000円 |
| 賛助会員 | 当協会を援助していただく会員です。 | 5,000円  | 6,000円  |

お問い合わせ、ご入会の手続き

公益社団法人 横浜市防火防災協会 総務課

TEL：045-714-0920

FAX：045-714-0921

Eメール：kyoukai@ydp.or.jp



# 応急手当講習テキスト 販売中



1部500円(税込み)



人工呼吸用感染防護具  
1個600円(税込み)



問い合わせ先

公益社団法人横浜市防火防災協会  
講習課 電話 045-714-9909

## 創業 50 年

消火器・消防ポンプ他  
各種防災機器の販売  
火災報知機他・各種防  
災設備の設計施工・点検



株式会社 蒲原商会

横浜市港北区樽町3-1-13  
TEL (045) 542-7266 (代)  
FAX (045) 542-7252

## ◆地下埋設タンク・配管の 気密漏洩検査

(一般財団法人 全国危険物安全協会 第14012号)

## ◆産業廃棄物の処理・再生 各種タンク・ピットの清掃工事

(弊社でリサイクル可能な廃油は買取り致します)

《ISO14001認証取得》



三美興産株式会社

〒223-0059 横浜市港北区北新横浜一丁目9番地2

TEL 045(549)3551 FAX 045(548)2102

URL: <http://www.sanbikosan.com/>



消防用設備一式 設計・施工・販売・修理・点検

|          |           |
|----------|-----------|
| 消火器      | 漏電警報器     |
| 自動火災報知設備 | 屋内消火栓設備   |
| 避難器具     | スプリンクラー設備 |
| 非常警報設備   | 誘導灯       |

株式会社



## 東横防災商事

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘4丁目2-3-206

☎(045)921-1244

FAX(045)923-0677

**消防・防災  
機器販売**

**消防設備  
工事・点検**

廃消火器の処分は所定の  
手続きが必要です。  
買い替え・処分は弊社に  
お任せ下さい!

**防災用品  
販売**  
非常持出袋

《創業76周年》消火器リサイクル推進センター 特定窓口

**双信消防設備株式会社**

横浜市西区中央1-37-24 ☎ 045-321-1884



# 横浜油材株式会社

Yokohama yuzai Co., Ltd.

石油部

重油・軽油・灯油・潤滑油 取扱い

洗剤部

クリーニング工場向け洗剤・資材全般・工業薬品・有機溶剤  
(業務用水洗機・ドライ機・コインランドリー設備施工全般)

工部部

危険物工事設計施工及び解体工事一式

リサイクル部

中古タンクローリー、  
中古給油機・中古コンプレッサー等 取扱い



〒245-0018 横浜市泉区上飯田町1465-2  
TEL: 045-803-3508 FAX: 045-803-3594

<https://y-yuzai.com>

未来をつくる、神奈川県民のための

## 火災共済

組合員の皆さまが火災等に遭った時、互いに助け合う制度です。

建物 1,000 万円 保障の場合  
年間掛金例

マンション等  
耐火構造専用住宅

4,000円

戸建て等  
非耐火構造専用住宅

8,000円

お客様よりこんな声をいただいています！

※当組合で実施している各種アンケートにて、組合員様よりいただいた声より抜粋

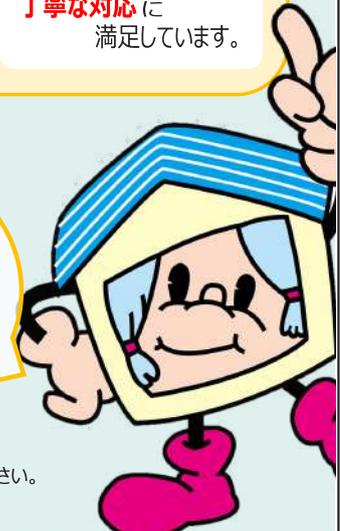
手頃な掛金なので  
契約しました！

加入手続きがカンタンで  
早かったです！

割戻金があると聞いて  
うれしく思いました。

丁寧な対応に  
満足しています。

手頃な掛金で  
築年数に関係なく  
加入できます！



※新規加入の際、出資金100円をお預かりいたします。その他、広告内容は概要のため、詳細はお問合せください。

横浜市民共済生活協同組合  
横浜市中区日本大通58 日本大通ビル8階

0120-073-203  
【受付時間】月～金/午前9時～午後5時(祝日・年末年始を除く)

横浜市民共済 検索



万が一の準備、できてますか？



# 平山防災設備株式会社



消防設備の設計・施工・メンテナンス・点検まで  
創業60余年の経験と実績にお任せください。

045-953-2727

[www.hirayamabousai.com](http://www.hirayamabousai.com)

〒241-0021 横浜市旭区鶴ヶ峰本町1-35-36

防犯・防災など地域への発信アイテムをお考えの方は、

デザインは **(株)ナデック** に

印刷は **野崎印刷紙器(株)** へご連絡下さい



クリアファイル



ステッカー



防災カルタ

担当営業がまず  
お話を伺います。 [hongou@nozaki-print.co.jp](mailto:hongou@nozaki-print.co.jp) まで

横浜市鶴見区矢向3-15-27 Tel. 045-571-3508



これさえあれば、すぐに消防訓練ができる!



誰でもわかる  
消防訓練



誰でもできる  
消防訓練



- A4判
- 32頁
- オールカラー



併せて使えば  
さらに  
パワーアップ!



- 全17分
- トールケース付

●このDVDのすべての権利は、著作権者に留保されており、これを複製、放送(無線・有線)などすることはできません。  
●このDVDは、映像と音声を高密度に記録したディスクですので、DVD対応のプレーヤーで再生してください。

冊子+DVD  
セット

一般財団法人 日本防火・防災協会 / 監修  
定価1,100円 (本体1,000円+税10%)

詳細は  
こちら!



地震、風水害、原子力災害・・・、  
あらゆる災害への対応から日頃行うべき  
備えまで、家族の命を守るためのこの1冊!

## 防災ガイドブック

～もしものときに備えて!～



- A4判
- 20頁
- オールカラー
- 定価187円  
(本体170円+税10%)

詳細は  
こちら!

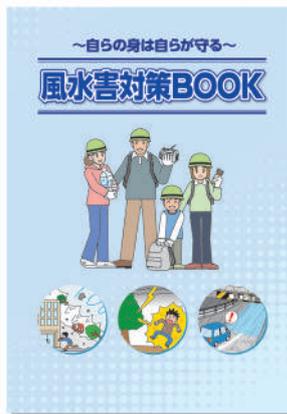


近年大きな被害をもたらし、多くの尊い命  
を奪っている風水害。「自らの身は自らが  
守る」ための最初の一步として!

～自らの身は自らが守る～

## 風水害対策BOOK

●監修 公益財団法人 市民防災研究所



- A5判
- 20頁
- オールカラー
- 定価110円  
(本体100円+税10%)

詳細は  
こちら!



東京法令出版 株式会社

お申込みは  
こちらから

インターネットでお申込み  
<https://www.tokyo-horei.co.jp/>  
(※最新情報等もホームページをご覧ください。)

お電話でお申込み  
0120-338-272  
(※携帯電話からもお申込みできます。)

FAXでお申込み  
0120-338-923

公益社団法人 横浜市防火防災協会

〒232-0064 横浜市内南区別所一丁目15番1号 BML横浜ビル2階

URL <https://ydp.or.jp>

FAX 045(714)0921



□ 総務課 TEL 045(714)0920  
□ 防災支援課 TEL 045(714)0929

□ 講習課 TEL 045(714)9909  
□ 救命講習受付 TEL 045(714)9911